

県と市町との連携会議（R5. 4. 27）

テープ起こし

【司会（県総務部長）】

本日、司会進行させていただきます。石川県総務部長の澁谷です。どうぞよろしくお願いたします。それでは初めに、馳知事からご発言いただきます。お願いたします。

【馳知事】

どうもお疲れさまです。この「県と市町との連携会議」については、昨年に引き続いて2回目となります。またどうぞよろしくお願いたします。

今日訃報が入ってきまして、私どもの大先輩である杉山栄太郎元副知事がお亡くなりになりました。私自身、明後日のお葬式に出させていただきます。副知事としては17年間お勤めになったということですから、市町の皆さんとのご縁もあったかと思ひます。改めて冥福をお祈り申し上げたいと思ひます。

また、これは嬉しいニュースですが、本日、珠洲市の地域通貨について、先ほど記者会見をされたと聞きました。昨年来、デジタル化については、加賀市が先行してしました。広域データ連携基盤整備タイプ1、タイプ2、タイプXとありますが、県内の県と市町と連携した行政のデジタル化の推進については、3年計画でできるところまでやりたいと思ひています。

昨年来、西垣副知事と一緒にデジタル庁、総務省、経産省、関係省庁とも連携の上でできるだけの多くのデジ田交付金の予算を獲得しようとしてきましたが、結果として全国一の割合を獲得することが出来ました。とはいえ、獲得した予算を有効に活用していく必要もありますので、引き続き、県としてできる限りの対応をさせていただきますたいと思ひます。

そのため、西垣副知事にも、「県庁に居てはダメで、市町を訪問して、どこにどう支援した方が良ひのかをきちんとお聞きして、調整しながら進めていくように」と申し伝えてあります。各市町によっては当然、県よりもはるかに進んでいるところもありますので、互いに足並みを揃えて進めることができるよう、県も頑張りたくと思ひます。

政府においては、予備費を活用した補正予算の数字が既に出てきてあります。石川県が43億円弱、市町は合計して33億円弱と。これについては、県は6月補正予算に盛り込む予定です。

物価高対策、資源エネルギー高対策、そして、最近要望が多いのは繊維業界、そして公定価格となっていて、自分達で値段が決められない、例えばお風呂さんや社会保障に関わる施設などからも大変困っているという声を多く聞いています。現在、商工労働部を中心に6月補正予算に向けて準備中ですので、もし、各市町で何か課題がありましたら、本日ご発言いただきたいと思います。

昨年、私が知事に就任して以来、6月の珠洲での地震以降の奥能登地域での地震の頻発、また8月の豪雨災害と災害が相次いだこともあり、安全・安心を守る社会基盤整備や道路整備、そして赤ちゃん協議会といった課題を一つ一つ丁寧に対応してきたつもりですが、まだ十分ではないと思っています。

今年も5月末以降、昨年度に続いて19市町を直接訪問します。今年は商工関係や福祉関係の団体を視察したいと思っていますが、地域ごとの課題があると思いますので、「ここを視察して欲しい」「まだこういう課題がある」と提示していただきたいと思います。

知事になり、初めての外遊ということで4月に台湾に3泊4日で行ってきました。いわゆる近代日本の統治時代に台湾の方々にどういう風なことをしてきたのかということや烏山頭ダムなどで過去に大変な努力をされた先人の姿も見る事ができました。また、それと同時に、台湾政庁の交通部副大臣とお会いしただけで、その日の夕方に名古屋にある中国総領事館から抗議の電話もありました。

今後おそらく夏ぐらいに、小松空港と韓国との便が復活しそう、そして中国との便は年末かなという状況ですので、その際には韓国、中国にも台湾と同じように私自身が直接行き、小松便再就航の御礼と挨拶をして、交流を深めていきたいと思っています。

先日、七尾市に行き、タイとの間で中小企業を中心に交流をしていこうということで、金沢大学さんに大変サポートしていただきました。またインド大使とも直接お会いする機会があり、インド大使からもぜひ石川県で経済セミナーをさせて欲しい、そして、一度インドに来て、インドとの交流を深めて欲しいとも言われました。

経済交流ですので、私からはITなどの高度人材の交流もお願いしたいと思っていますし、インドとの交流については、森喜朗元総理からもインドを大事にして欲しいということも言われています。

現在、県の成長戦略を9月に向けて作っていますが、農産品や伝統工芸品などの販路開拓を考えると、こうした国々と観光面だけではなく、物産の交流や、人的交流もいよいよ今年は本格的に進めていかなければと思っています。

最後になりますが、昨日、5月8日以降のコロナ対策の体制について、記者会見で、県民の皆さんに報告しました。その内容については、縣市町支援課を通じ、19市町にも報告したところです。ぜひ各市町においても、首長が中心となって、周知の方をよろしく願います。

4月は統一地方選の1ヶ月でした。無事無投票当選をされた粟野々市市長、前川北町長、また激戦を制した田村さんは白山市長として就任をされました。お祝い申し上げますとともに、地元の県議の皆さんとともに、私も協力して各市町支援のために汗をかきたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしく願います。以上です。

【司会（県総務部長）】

それでは、市長・町長の皆様からご発言をいただきたいと思います。時間の都合もございますので、お1人当たり3分程度で願います。

初めに、市長会会長の金沢市長、願います。

【金沢市長】

金沢市の村山です。よろしく願います。

今年はコロナ禍からの反転攻勢の年ということで、三つ大きな行事があると思っています。

G7 富山金沢教育大臣会合は5月にありますし、10月、11月はいしかわ百万石文化祭があり、そして来年3月には北陸新幹線県内全線開業、敦賀延伸があります。この機を逸することなく反転攻勢をかけていきたいというのは本市の課題そして大きな取組です。

まず、金沢市では重点取組が5つあります。

1つ目は、世界に誇る文化都市金沢の実現です。今年度は市内の全中学生に金沢の素囃子や、県立音楽堂でオーケストラアンサンブル金沢の演奏を聞いてもらうような取組をしていきます。また、デジ田交付金を生かし、デジタルミュージアムを構築していきます。

2つ目は地域経済の活性化と安全・安心の確保です。先般、国で閣議決定された物価高騰対策は、住民税非課税世帯と低所得の子育て世帯に対する給付金の早期支給ということで、専決処分を行いました。

加えて、市独自の物価高騰対策として、これまでのコロナ禍の時よりもプレミアム率は下がりますが、プレミアム商品券を倍増して発行しております。また雇用対策として、離職者の再雇用とリスクリングを促進するために、新たな雇用奨励金制度を創設しました。

3つ目は、地域コミュニティの活性化と共生社会の実現です。従業員の方々が地域活動に参加しやすい職場作りを進めるという企業、その企業に対しての奨励金を設けたほか、共生社会の実現に向け、統合保育支援制度の全国トップレベルへの引き上げ、保育所における医療的ケア児の受入れに向けた準備を進めていきます。

4つ目は、未来をつくる子供への投資です。新たに金沢子育て夢プランを策定するほか、独自の文化芸術プログラムを通し、保育施設などにおける子供の情操教育を行うモデル事業を行っていきます。また学校教育においても、新しい時代の学びのあり方を踏まえたモデルの構築に着手します。

最後の5つ目は、活力と魅力あふれるまちの創出です。10年後を目標年次とする新たな都市像を現在策定しています。これに向けた行動計画とともに、日銀の跡地について検討会、懇話会を設置していきます。

次に、地域課題についてですが、人口減少や少子高齢化などの環境変化の中、金沢市でも地域コミュニティの希薄化が叫ばれるようになりました。そうした背景の中、今年度、金沢市に地域力再生課を新たに設置しました。民間の知見や大学の知見を活かし、若者ととも地域を活性化していくといった取組を進めていきます。主に金沢の北部地域や中山間地域を中心に進めていきたいと考えています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、町長会会長、津幡町長お願いいたします。

【津幡町長】

津幡町の矢田です。よろしく申し上げます。

津幡町からは昨年10月に知事に視察していただいた、津幡駅東口整備と津幡駅東側地域の開発についてです。IRいしかわ鉄道津幡駅は、金沢方面、富山方面そして能登方面へのJR七尾線と接続する主要な鉄道駅です。乗降口のある駅西側は住宅や大型ショッピングセンター等がありますし、また金沢星稜大学スポーツキャンパスも造成工事中と開発が進んでいます。

一方で乗降口がない駅東側はほぼ未開発です。国立石川工業高等専門学校が立地していますが、乗降口がないため、通学のためには回り道しなければならない状況です。そうした状況から、駅東口整備は、線路による東西分断を解消し、津幡町東部の新たな街づくりに欠くことができない事業と考えています。

この事業は社会資本整備総合交付金と地方創生道整備交付金を活用し、今年度から事業に着手します。まず東口と西口を連絡する自由通路に取りかかります。その後、東口にはロータリー、駐車場、駐輪場などを設け、路線バスの停車場も設け、令和8年度の完成を目指しています。

令和3年に作成した津幡町都市計画マスタープランでは駅周辺を含む津幡町東部の未開発地を賑わい交流等の拠点として、また、津幡駅から旭山工業団地周辺へ接続する新たな道路も考えています。工業団地への新たなアクセスが形成されることで、県道中尾・津幡線の交通渋滞が解消するとともに、防災基盤強化にも繋がると考えています。

この拠点には企業用地や住宅地はもちろんですが、国立石川高専と産学連携した研究型企業の誘致も推進したいと考えており、将来の我が津幡町の命運をかけた事業と捉えているところですので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

ここからは、建制順でご発言をいただきたいと思います。

七尾市長よろしくお願いいたします。

【七尾市長】

七尾市の茶谷です。よろしくお願いいたします。

各市町の共通の課題としましては、少子高齢化、人口減少と、それから経済というところだと思いますが、七尾市としても、グローバルな視野を持ってこれらに取り組んでいきたいと考えています。

まず経済の発展に関して、物価高騰が必ずしも悪いものではないと考えています。海外と比較するとまだまだ日本の物価というのは安いという背景の中、経済的に戦っていくためには、海外を視野に入れた取組をしていかないといけないと思っています。

これまでコロナでなかなか海外との交流ができなかったわけですが、今後しっかりと交流して、高付加価値のものを海外に販売できるような体制をしっかりと取っていきたいと考えています。また、交流人口拡大ということで、国内だけでの交流ではなく、海外からもしっかりと交流人口拡大を狙っていきたいと考えています。

七尾市はご承知のとおり、和倉温泉があり、和倉温泉の観光が今までは目的でした。今後は、それにこだわらず、観光だけでなく、文化、スポーツ、エンターテインメント、国際会議といったものも誘致して、大きく誘客拡大を図りたいと考えています。それが地域の経済の活性化にも寄与するのではないかと考えています。

少子化対策については、七尾市では4月から学校給食無償化、保育園の第2子以降の無料化を実現しました。ただ、経済的支援だけでは少子化は歯止めがかからないと考えています。

この能登の自然の中や、また歴史文化のある中で、子育てをしてみたい、そういう方たちを多くこの地域に呼び込みたいということで、色々な体験メニューのYouTube動画を作りました。その動画を国内の各地域へ情報発信することで多くの方に、この能登の地域で子育てをしてみたい、結婚して出産して子育てをしてみたい、そういう方をどんどん増やしていけるような取組をしっかりと進めていきたいと思っています。

もう一つ、七尾市を中心とした漫画「君は放課後インソムニア」のアニメ、そして6月に実写映画化されますので、この七尾市を多く知っていただく絶好の機会だと思っています。4月29日には、のと鉄道でラッピング列車も走ります。こうした好機を逃すことなく多くの方に能登地域に足を運んでいただく、石川の地に足を運んでいただく、そういう取組をしっかりと進めたいと考えています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、小松市長、お願いいたします。

【小松市長】

小松市の宮橋です。よろしく申し上げます。

小松市の今年度の重点取組項目としては、なんとといっても来年3月北陸新幹線敦賀延伸に伴う小松駅開業ですので、それに向けた取組をしっかりと進めていきたいと思っています。国民文化祭前の9月には、新しい観光交流センターが新幹線の高架下に、オープンします。

こうした準備を進めるとともに、都市圏を中心に大規模なプロモーション活動を実施して、しっかりと開業に向けての機運の向上に取り組んでいきます。

小松市にとって、北陸新幹線開業は一方で小松空港対策でもあると考えています。この小松駅と小松空港が一体となった取組ができるよう、来年春の開業に向け、自動運転バスの運行に向けた長期試験も実施していきますし、朝も空港の中長期ビジョンの会議を県庁でも開催していましたが、空港周辺の整備もしっかり進めていきたいとします。特に安宅工業産業団地については、速やかに進出企業の意向調査を実施して、分譲開始に向けた取組も進めていきたいと考えています。

少子化対策については、私が市長就任以来、最も力を入れてきた部分です。今年度からは、七尾市さんと同様に学校給食無償化を自主財源で達成することができましたので、さらに子育て政策の内容も積み上げていきたいとします。こども家庭部を創設して、プレコンセプションケアから教育政策の充実まで図っていききたいとします。

また、防災・減災、安心できる体制ということでは、昨年は小松市でも大きな災害がありました。県・国と協力しながら、緊急治水対策プロジェクトを着実に実施していく必要があるとしますし、遊水地など新たな取組も実施していきたいとします。

さらには今年度、ダヴィンチか hinotori (ヒノトリ) かまだ分かりませんが、小松市民病院への手術支援ロボットの導入が決定しています。こうした導入も踏まえ、今後の小松市民病院について、小松市だけでなく、南加賀の拠点病院としてのあり方について、将来の建替なども含め、検討していきたいとします。

このほか地域課題として、コマツドームをはじめ、公共施設マネジメントについて、ここ一年しっかりと取り組んできました。やはりこの公共施設マネジメントを考えるにあたっては、ある程度の広域化も含めた検討が必要だと思しますので、南加賀の市町の皆さんとしっかりと連携して、進めていきたいとします。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、輪島市長、お願いいたします。

【輪島市町】

輪島市の坂口です。よろしく申し上げます。

日頃から何かとお世話になっています。とりわけ昨年から、赤ちゃん協議会において、医療体制の充実、産科医師の複数体制を確立していただき、まずはお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。ただ、まだまだ医療体制については、中長期的に充実が求められると感じていますので、今後ともお力添えをよろしくお願い致します。

2つ目は、人口減少対策です。やはり奥能登地域、特に輪島市は人口減少率が全国でワースト5に入ったという、本当に危機的な状況であり、遅ればせながら窓口を一本化して、移住定住に取り組んでいるところです。その中の一つとして、先ほど七尾市長さんや小松市長さんの発言にもありましたとおり、学校給食無償化にも取り組んでいるところです。

そうした子育て環境充実に取り組んでいる中で、高校がない地域には若い人が住みにくいという話も聞きます。輪島市には公立高校が2校ありますが、2校とも定員割れという状況が続いており、門前高校については80名定員のところ、11名と危機的な状況になったことがありました。

現在、星稜の山下元監督に来ていただき、取り組んでいるところです。11名から28名、今年は46名まで新入生が増えている状況でして、市外・県外からも生徒が来てくれています。

こうした高校魅力化プロジェクトをこれからも地域おこし協力隊なども活用しながらどんどん充実させていきたいと思っています。すでにお力添えをいただいておりますが、また更なるお力添えをよろしくお願い致します。

そして輪島市の産業といえば観光、漆器、漁業です。美味しいものがいっぱいありまして、輪島市は美食と漆器、美食と器ということで日本国内だけでなく、世界に打って出たいと思っています。先ほど、馳知事からの話もあった海外との交流から何とかして国内の観光だけじゃなく、インバウンドを何とかしていきたいと思っています。

輪島市ではコロナ前でもインバウンドによる宿泊客の割合は2%を切るくらいでした。そうした中でも、漆器組合が運営している店での売上の20%が海外のお客様によるものだったということで、非常に経済的にも効果があると実感しており、今後の輪島市の観光振興のためにはより一層インバウンドが必要と思っています。

ここからは要望になりますが、どうしても奥能登地域は公共交通が弱いという部分があり、これはデジタル化も含めてですが、MaaS (Mobility as a Service) と

いう取組、iPhoneなどのスマートフォンから検索・予約・決済までが一括してできる移動サービスがまだ国でも実証実験の段階とのことですが、ぜひとも石川県としてこの部分を取り組んでいただきたいと思います。

金沢まではインバウンドが大変多い状況ですので、これを県内津々浦々までしっかりと海外の方々が来られるよう、もちろん私達もしっかりと頑張っていきますので、またお力添えをよろしくお願いいたします。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、珠洲市長お願いいたします。

【珠洲市長】

珠洲市の泉谷です。よろしくお願いいたします。

珠洲市の今年度の取組については、なんとと言っても「奥能登国際芸術祭」です。今年は9月2日から10月20日にかけて開催します。3回目ですが、アーティストの顔ぶれ、アートのイメージが大体出揃ってきまして、これまでの中でも一番グレードが高く、かなり面白い芸術祭になるのではないかと考えています。

そして大谷の方では、坂茂さんに設計いただいたレストランも整備しています。メニューの提供については、ぶどうの木さんをお願いするということで、ここも含めて、ぜひ皆様にもお越しいただければと思っています。

先ほど、坂口輪島市長さんからインバウンドの話がありましたが、2回目の芸術祭に際して、上海にPRに行ったのですが、まさに砂漠に水をまくような感じ、手応えが全く感じられなかったです。今回、台湾の方に知事が訪問された1週間後に行き、具体的には旅行代理店を10社回ってきました。

知事の方で1社既に決めていただいていたのですが、プラス3社にツアーの造成を決定いただきました。本当に今回は噛み合うというか、非常に親身になって考えていただけたところが多かったので、台湾を色々とあたってみるというのは非常に良いのだと実感しました。

あと台湾の旅行情報誌の会社にも行きまして、今後、契約を交わそうかなとも思っていますが、情報発信も実施いただけるとのことですので、そういったところも具体的に進めていきたいと思っています。

あと2点目は、先ほど知事の発言にもありましたが、国のデジタル交付金を活用して、まずはデジタル地域通貨の仕組みを構築したいと思っています。

具体的にどうするかといいますと、人口も減っていく、そして高齢化も進む中、地域の皆さん同士の支え合いをデジタル地域通貨を通して活発にしていきたいと考えています。

助けて欲しい方、助けてあげようという方を、このデジタル地域通貨で結んでいく、そしてまたSNSでマッチングさせていくといったことを中心に、既存の珠洲市のポイント付与事業の統合も図りたいと思いますし、これまで商品券として出していたものもデジタル地域通貨としてより利用しやすいようになどと進めていきたいと考えています。

3点目は、スマート除雪を取り入れていきたいと思っています。どれだけ雪が降っているか、これまでは午前3時から職員が市内をずっとパトロールして、どこを除雪すべきか調べているのですが、センサーで積雪量の情報が自動的に得られるセンサーを市内15ヶ所に設けます。除雪車にもGPSを装備をして、位置情報を把握することができるようにしていこうと思っています。

県道の方の除雪状況などとも連動できればもっと効率的になるかなと思いますし、そういうセンサーの情報や除雪車の位置情報をもっと広域的に把握することができれば、なお一層の効果があると思いますので、県との連携も図っていければ良いなと考えていますので、どうぞよろしく申し上げます。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、加賀市長お願いいたします。

【加賀市長】

加賀市の宮元です。よろしく申し上げます。

加賀市では、1つは人への投資として、教育改革と産業人材育成のリスクリングの方に注力したいと思っています。そして、新幹線が開業するにあたり、加賀温泉駅周辺の整備。あとは従来どおりですが、イノベーションの推進を考えています。

成長戦略会議の時にも知事に申し上げたと思いますが、今日はせっかくの機会ですので、申し上げたいことがあります。今日の新聞に出ていました2070年には人口が

8700万人、3割減少になるそうです。

今後もこの人口減少というのは大変な話になっていきます。それぞれの首長さんからもお話があったとおりでありますが、人口減少に対しての県全体としてのグランドデザインを描く必要があると思います。個別案件を整理する以前に、県全体のグランドデザインを戦略的に描いていただく必要があると思っています。

それぞれ大変苦しんでおられると思いますし、南加賀地域では加賀市だけが唯一、消滅可能性都市ということですから。11市8町ある中、5市4町が消滅可能性都市ということは、石川県のまさに半分です。石川県が消滅可能性都市ということですから。

この問題について、これまで石川県が重点的に取り組んできたということは、私はあんまり記憶にないです。県議会にいた時もあまり聞いたことがありませんでした。我々がいくら言っても、反応があまりなかったのも事実です。すでに格差が生じているわけです。子供たちの公共交通にしてもしかりです。選択肢がないのです。

輪島市長からMaaSの話がありましたが、MaaSは移動手段が元々ある、確保できたという前提の上でアプリケーションで連動させるという仕組みです。加賀市なんかの場合はそもそも移動手段がないわけです。だからデジタルがなかなか進まないということでもあります。

私が今申し上げたことも含め、それぞれの首長さんはやりたいことをみんな持ってらっしゃるわけです。これをやれば、加賀市の地元の活性化に繋がっていくと、やりたいのだけど、リソースがないのです。資金、財源がないのです。デジタル化にしたって、財源がないわけです。

だから、色々手を打とうと思っても、現実的には手が打てないという状況なのです。私は、それぞれの自治体が同じことをやれば、平均的に沈没するのは当たり前だと思っています。だから差別化して、それぞれ差別化した中でトップを狙っていくことが必要だと思っています。

それを県がバックアップしていくということが私は一番大事だと以前から思っています。成長戦略会議の時も確かそうしたお話をさせていただきました。はっきり申し上げて、金沢を中心とした経済界、経済圏はしっかりとしたエコシステム出来上がっています。小松、能美そして白山もしっかりとした産業集積が起こっています。しかしそれ以外の地域には、なかなか起きづらいのが現実です。

今日、すぐに突っ込んだ話にはできないと思いますが、県はどう絵を描いていくかということ、ぜひとも知事には記憶にしっかりと留めていただいて、県庁の中でそういう議論を我々も含めて、しっかり一度していただきたいというのが要望です。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、羽咋市長、お願いいたします。

【羽咋市長】

羽咋市の岸です。よろしく申し上げます。

まず令和5年度の重要施策については、やはり少子高齢化、人口減少の中で賑わい創出、若者定住を進めていく必要があるということで、昨年度に続き、羽咋の玄関口であるJR羽咋駅、そして千里浜インターチェンジ周辺の整備を進めていきます。

まずJR羽咋駅周辺については、商業施設がありましたが、羽咋市がこれを買取り、今工事を進めています。3月1日に起工式を行い、来年夏に完成予定です。周辺の道路も含め、事業費は30億円を見込んでいます。

1階は図書カフェ、学習スペース、2階には屋内公園、3、4階はシェアスペースとして、eスポーツの常設、それから多目的ホールと、市民が集う賑わいの創出の場所となる予定です。隣接する長者川についても、県に護岸工事進めていただき、感謝申し上げます。また、隣接する県道についても、整備をよろしく申し上げます。

もう1つは千里浜インターチェンジ周辺、ここは道の駅「のと千里浜」がありますし、向かいには宿泊施設「ゆ華」があります。また、ユーフォリア千里浜という商業観光施設もあります。

道の駅の後ろに平成に造成した住宅団地が約70世帯ありますが、今その横に若者定住という目的で、安価な住宅地として造成しています。2月に募集をして、今月1次募集締め切りました。24区画のうち10区画に応募があったという状況でした。また、道の駅の沿道についても、商業施設の募集をかけ1社の応募がありましたので、誘致に向け今年度中に1haの造成に取り組んでいく予定です。

次に課題については、能登地域全てで同じだと思いますが、地域公共交通の整備です。羽咋市には北鉄の路線バスが9つありましたが、車社会の進んだということ、そ

れから利用者の減少で現在は3路線しかありません。

こうした背景から、羽咋市はコミュニティバスを運行しましたが、朝1往復、夜1往復の2往復しかないということで本当に不便ということで見直し、令和3年度にはAIデマンドタクシーの実証実験もしてきました。

こうした中で3つの手法を考え、1つは路線バスと重複するコミュニティバスの廃止、2つめが路線バスの利用助成、3つめがデマンドタクシーとコミュニティバスの棲み分けをすると。

コミュニティバスについては2往復あったところ、3～4往復へ増便し、利用者の利便を図り、デマンドタクシーについては、お年寄りの方がなかなかスマホを使って予約ができないということでしたので、お年寄りの方々への研修をして、周知を進めていきたいと思っています。

問題はデマンドタクシー、コミュニティバスについては、特別交付税の措置がありますが、路線バスの利用助成については、現状では資金手当がない状況です。やはり地方公共交通の見直しの中で出た計画については、ぜひ地域の路線バスの助成についても、ぜひ財源手当ができるようお願いしたいと思います。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、かほく市長、お願いいたします。

【かほく市長】

かほく市の油野です。よろしく申し上げます。

かほく市の今年の重点施策については、これまでどおり子育て支援、定住促進、この二つの柱にしっかり取り組んでいきたいと思っています。

特に今年は子育て支援として、新たに通学定期の補助制度を設けました。これについては毎年、中学生の特別授業ということで、各学校で1時間余りの授業時間をいただき、私が街づくりについて講演しています。

その中で子供たちから、「かほく市には高校がない、必ず市外へ通学しなきゃいけないのに高校に行くと急に応援してもらえなくなる」、そう子供たちから提言をもらったことから、これについてはしっかりやろうということで、今年度から取り組むこととしました。

また今、かほく市の体育館を新たに建て替えており、去年6月に着工して、今年度いっぱい総合体育館が完成します。ここをスポーツを核とした街づくりの拠点にしたいと思っており、完成に先立ち、スポーツコミッションの立ち上げにも取り組んでいます。

これについては、かほく市のスポーツ協会、スポーツ少年団、また総合型地域スポーツクラブ、商工会、観光協会、また民間企業の方にも入っていただき、ここが中心となり、地域の活性化にも繋げ、交流人口の増大にも繋げていきたいと思っています。また、これからの課題である中学校の部活の地域移行、これの司令塔にもこのスポーツコミッションにしっかりなっていってもらおうと思っています。

ご承知のとおり、かほく市は来年3月1日で合併して20年という大きな節目を迎えます。これに向け、20周年の色々な事業も計画していますし、イベントとして、今年8月には観光物産協会と連携して、しっかりとかほく市の発信事業もしていきたいと思っています。

これからも若い世代に選んでもらえるような街づくり、そして何よりも本当に住んでいる皆さんから少しでも満足を感じてもらえるような、大きなことは言えませんが、一つ一つできることを積み上げていく、これが私の姿勢ですので、これからもそういった形で街づくりに取り組みたいと思っています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、白山市長お願いいたします

【白山市長】

白山市の田村です。よろしくお願ひします。

白山市の将来都市像「健康で笑顔あふれる元気都市白山」の実現を目指すため、健康、笑顔元気の各プロジェクトを推進しているところです。

そこで、「もっと住みやすい」「もっと活力と魅力あふれる白山市」とするため、「もっと安全な地域」、そして「もっと活力ある町」「もっと輝く個性」を、「もっと安心の子育て」、「もっと快適な暮らし」を、5つのもっと健康・笑顔・元気のプロジェクトに反映させながら取り組むこととしています。

11万人の市民が活躍する健康プロジェクトとして、市民の健康寿命の延伸、子育て支援に向けて健康都市白山の推進、子育て・スポーツ施設の整備・充実などを旨すとともに、共同連携でつくる笑顔プロジェクトとして、昨年の発生したような豪雨災害等から市民を守るため、災害に強い本庁舎づくりなど、防災機能の強化を図ることとしています。

また、地域の拠点となる防災コミュニティセンターの整備として、各28公民館区の公民館に防災倉庫の設置し、また防災コミュニティセンター化として自家発電の設置、電気自動車からの給電施設、マンホールトイレの設置なども公民館の方で進めているところです。

市民協働の街づくり推進として、町の魅力と価値を高めるということを行っており、特に先ほど申しました防災を全28公民館区でテーマとして、地域の皆様に地域防災について取り組みを進めていただいています。

5月には白山手取川ジオパークが認定を見込まれていますし、白山総合車両所を活用したビジターセンターも完成する予定です。これを世界に展開、観光産業の振興に繋げていきたいと考えています。

地域課題としては、特に鶴来方面の北陸鉄道石川線の公共交通の維持・充実があります。それ以外にも山間部における路線バスが非常に少なくなっていること、朝晩のコミュニティバスだけではなかなか通学ができないという問題もあります。

また、デジタル化を推進による行政サービスの充実を図るということでは人材確保の課題がありますし、今年度は職員研修もしっかりとやっていきたいと思っています。そのほか、定住支援の促進、白山麓地域の振興については、どうしてもスキー場の問題もあります。

また観光産業振興のためには、白山白川郷ホワイトロードは不可欠ではありますが、過去何回か崩れていますが、県の方でもしっかりと取り組んでいただき、連休前に車が通れることになっています。本当にありがとうございます。今後は完全復旧に向け、より一層頑張りたいと思っています。一里野温泉においては、引湯管が壊れたままですので、復旧作業について、国土交通省等と連携しながらさらに取り組んでいきたいと思っています。

若者世代の人材を活用した地域活性化としては、地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊、特に白峰地区等においては大学生に入ってもらって頑張ってもらっています。

農業林業の担い手不足についても、今後取組を進めていきたいと思っていますし、過疎化対策についても、先ほどの白山手取川ジオパークとも連携し、例えばジオツーリズムを取り入れたり、恋人の聖地を活用したりしながら進めていきたいと思っています。

最後になりますが、白山麓には旧5村の様々な旧庁舎がまだ残っていますので、この休止施設や公共施設の老朽化等の対策を今後地域住民の声もしっかり聞きながら進めていきたいと思っています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、能美市長お願いいたします。

【能美市長】

能美市の井出です。よろしく申し上げます。

能美市の令和5年度の予算は、災害対策、市民力・地域力の強化、認知度・知名度の向上、自然動態の増進、GXの推進の5つの目標と方針を掲げ、デジタル技術の導入を図りながら、スピード感を持って着実に進めていきたいと考えています。そうした中、2つの課題を申し上げます。

1つ目は、人材不足、人手不足です。おかげさまで能美市は企業誘致、市内企業の増床が続いていますが、地元企業からの人材の流出は避けたいと思っています。また、既存企業からもなかなか人材が採れないという声も聞いていますし、福祉人材もなかなか確保できないという声も引き続きあります。

こうしたことから、大都市圏からのU I Jターンを推進していきたいと考えていますが、能美市だけでは知名度、認知度が不足していて、なかなか実現には至っていないのが実情です。そこで、石川県が一丸となって取り組んでいただきたいということをご提案申し上げたいと思います。

来年には北陸新幹線県内全線開業を迎えます。東京圏のみならず、中京圏や関西圏を含め、加賀や能登の魅力を全面的にPRし、人材不足のみならず、移住促進や交流人口の拡大にも繋げていきたいと思っていますので、ぜひ県のリーダーシップをお願いしたいというのが1点目です。

2点目は、学校の長寿命化です。市内には11の小・中学校があります、築50年以上が35%です。その一方で、国の交付金というのが手薄です。脆弱な財政規模の能美市だけではこの11小中学校の長寿命化が図れません。ぜひ県の格別のご支援をお願いしたいというのが2点目です。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、野々市市長お願いいたします。

【野々市市長】

野々市市の粟です。よろしく申し上げます。

野々市市の令和5年度の重点施策、予算面からお話ししますと1つは、子育て施策の充実ということを挙げています。当然ですが、国からの交付金などをいち早くお届けができるように、専決や様々な方法で素早い対応をしていきたいと思っています。

本市は特に保育ニーズ、特に未満児の保育ニーズが非常に高く、これまで待機児童ゼロということでやってきましたが、かなり厳しい状況にもあります。これまで未満児には、市の中央保育園で主にお預かりをしていました。

その大規模改修に合わせさらにその受け皿を充実させたいと考えていますし、同時に様々な子育てにお悩みのご家庭もありますし、様々な事情のご家庭もありますので、相談体制も充実をさせたいというふうに思っています。具体的には、市として責任を持って、きめ細やかなことを対応していきたいと思っています。

2点目は多様な福祉ニーズに対応するため、福祉の分野では、重層的支援ということを言われています。具体的には、様々な福祉に関係する情報を共有しながらしっかり対応できるようにしていきたいと、4月から市役所に福祉連携調整室を設置したところです。

3点目は昨年度、ゼロカーボンシティを宣言しましたが、カーボンニュートラルの取組を促進させていきたいと考えています。具体的には、市役所に電気自動車の導入、施設のLED化といったことを進めていきたいと思っています。公衆街路灯などはそれぞれ地域の町内会の皆さんに協力いただきながら整備してきましたが、LED化への切替えについては、全額市で負担して、LED化を進めていきたいと考えています。

最後に4点目、市の公共施設個別施設計画に基づき、施設の長寿命化についても、計画通りしっかり取り組んでいきたいと思っています。

この4点を今年度の重点施策として取り組むこととしています。これに加え、知事からのお話にもありましたが、デジタル化について、市の方では人にやさしいスマート窓口ということで、交付金の決定もいただきました。こうしたデジタル化ということを経験した分野で検討していきたいと思っております。

そう大きなものではないのですが、野々市田園地帯って言いますか、そういう場所の整備について、デジタルを用いた中で整備が検討できないかっていうようなことも、特に今検討しているところでして、この他にも様々な面でデジタル化のチャレンジをしていきたいと思っています。

それから地域課題の要望ということでは、市内には二つの大学がありますが、今申し上げたデジタル化や様々なことについて、これまでも一緒に取り組み、連携させていただいていますが、さらに連携を深め、一緒に街づくりをしていくことができればいいなと思っています。特に石川県立大学について、さらに連携を深めたいと思っていますので、よろしくお願ひします。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、川北町長お願ひいたします。

【川北町長】

川北町の前です。よろしくお願ひします。

川北町の令和5年度の重点事項について、まず若者の定住化としては昭和61年に当時の労働省、雇用促進機構によって建設された雇用促進住宅を15年程前に購入し、町が管理しています。築後30年を超え、相当に劣化したということで4年ほど前から、計画を立て、去年は実施設計と入居者に退去してもらう予算をつけました。

今年は当初予算で解体工事を予算づけしましたので、9月補正予算では新築予算を計上したいと考えています。ただ相当な物価高ということで予想以上の予算が必要になるようで、町の規財政模からすると、相当重いですが、何とかこれを実施していきたいと、完成までは2年ほどかかりますので、来年度末には完成させていきたいと思っています。

加えて、町の若者に定住してもらう、とにかく定住化を促進するためには、学校を卒業して、町内企業や町外企業へ就職するという流れの中で、奨学金をたくさん抱えている方がいると聞きましたので、奨学金助成を今年度から実施します。

そしてもう1つは、5年前から取りかかっております、多目的運動公園（仮称）が来年3月目指して竣工するというので、約2.8haと町としては結構大きな規模ですが、これを確実に整備していこうと思っています。

芝生広場に加えて、100m走もできますし、ジョギングやウォーキングの場所もあります。そして複合遊具などを入れ、お子さんたちに遊んでもらいたいと、そういう施設を予定しています。これが今年の予算です。

そして地域課題としては、とにかく地場産業を振興していく、中小零細企業はこの3年間コロナ禍で相当疲弊していますので、どういう助成ができるのか、検討している最中ですが、決めたら早速実施していきたいと考えています。

また、町東部地区の工業団地約15haを造成しましたが、残りがもう、1.6haになりました。ここに何とか早めに企業に進出いただき、次のステップへ進んでいきたいと思っています。

さらには、子育て支援については、これまで色々な支援策を講じてきましたが、国からはこのたび異次元の子育て政策ということも聞こえてきます。ただ、情報がなかなか入ってこない。これまでもそうですが、情報が入ってきてもすぐやれと、そういう流ればかりです。なんとか早め早めに情報を提示してもらえれば、町政策と併せてより良く実施できるものもありますので、この辺は情報提供の迅速化ということをぜひ県から国の方へもお願いしていただきたいと思っています。

それともう1つ、ハード事業ですが、現在、下水道については定期的な国の助成もあり、大丈夫なのですが、上水道の方については助成がなく、町単独で計画的に今から実施をしていく必要があります、10年かかるのか、15年かかるのか分かりませんが、相当の費用がかかるということで心配しています。国の方で助成事業や補助メニューなど、その辺も県からぜひ要望していただきたいと思います。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、内灘町長お願いいたします。

【内灘町長】

内灘町の川口です。よろしく申し上げます。

内灘町の重点取組項目としては、今年度から2年で立地適正化計画を策定予定です。本町の人口は平成27年国勢調査をピークに減少傾向が続いています。

また、町制施行以降区画整理事業などにより、急速に都市機能が整備され、その後60年が経過し、公共施設やインフラの老朽化が進んでいます。今後も社会全体における人口減少が続くことが予想される中、魅力ある街づくりを進めるためには、都市機能を集約し、公共施設や公共交通の再編成を図ることで、よりコンパクトな街づくりを進めていく必要があります。

この計画策定に合わせて、町の重要課題であります内灘駅の周辺整備や図書館建設、内灘海岸の賑わい創出に向けた施設整備も計画の中に入れていきたいと思っています。本計画策定にあたっては、今後とも県の協力をいただきながら、進めていきたいと考えていますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、志賀町長お願いいたします。

【志賀町長】

志賀町の小泉です。よろしく申し上げます。

志賀町の今年度の重点事業は交流人口拡大と定住促進です。交流人口拡大については、スポーツを通じた交流人口拡大と賑わいの創出を目的として、アーバンスポーツ場建設を計画しています。

東京オリンピックを契機に人気が高まってきたスケートボード場をメインとして、今年度は初心者向けのフラットエリアや観客席、多目的に利用可能な屋根付ステージ場を整備予定です。来年度に向けては隣接する緑地帯を上級者向けの屋内型スケートボード場として整備予定でして、アジアクラスや国内大会が開催できるよう計画しているところです。

次に定住促進についてです。これまで志賀町では80区画以上の定住促進住宅を整備してきました。これが完売し、昨年度また12区画を整備して、この4月から販売開始したところ、既に完売する予定となっています。今年度も新たな用地はもう既に50区画分ほど確保していますので、整備して、住宅整備を進めていきたいと考えています。県の方でも予算をまたよろしく申し上げます。

先ほどお話がありました公共交通の支援について、志賀町には鉄道がありませんので、学生や高齢者といった交通手段を持たない方々にとっては、バスというものは大変重要な移動手段です。これまで県や国からも支援してもらっていますが、バス会社が本当に赤字で、町に支援を強く求めてきて、負担が大きくなってきています。

県だけではなく、国に対してもしっかりと公共交通、特にバス路線の支援をしっかりと欲しいと思っています。鉄道のあるところはまだまだ人が来ますが、志賀町ではバスがなくなってしまうと、本当に終わってしまいます。

次に、これは志賀町というよりも羽咋郡市広域圏からのお願いです。知事もご存じのとおり、石川北部RDFは廃止になりました。能登地域の市町では既に焼却炉を作っていますが、羽咋郡市だけまだ作っていません。というのは、ある事業者がRDFのペレットを買ってくれるという話がありましたが、結局、「買う買う詐欺」をされました。

急に買わないと言い出したので、私どもはいまだに焼却炉を建設していないという状況です。これまで奥能登の市町は、過疎債の配分が県からあったと聞きますので、羽咋郡市の羽咋市、宝達志水町、志賀町に対しては通常分よりも上乘せをして過疎債を配分していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最後にこれは小さなお願いですが、志賀高校は今年度、レスリングの交流、スポーツ交流としてレスリング部の高校生2名をアゼルバイジャンに派遣します。その支援をお願いしたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。以上です。

【馳知事】

高校生を1年間派遣するのか。

【志賀町長】

期間は夏休みだけです。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、宝達志水町長お願いいたします。

【宝達志水町長】

宝達志水町の寶達です。よろしくお願いいたします。まず、小泉志賀町長から話がありましたが、羽咋郡市におけるゴミ焼却炉支援については、ぜひともご配慮いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

宝達志水町では、町内に5校ある小学校を2校に統廃合することとしています。令和7年の開校に向け、2年かけて改修していきます。今後の利活用についても、地域の住民の方や有識者の方にも入っていただく協議会を設置し、取り組んでいきたいと思っています。

また、宝達山には山の龍宮城という休憩施設があり、事情があり、現在3年ほど閉じていますが、これを近くに移転する工事を今年度実施します。大変眺望が良いものですから、それを活かすとともに、宝達山はかつて加賀藩を支えた金山としての歴史もありますので、そういったこともPRできるようなものにしたいと思っています。

またアサギマダラという蝶が生息していたり、登山はもちろんのこと、ドライブやランニング、自転車と色々な方が利用されますので、多くの方に親んでもらえるような施設にしたいと思っています。建設費について、クラウドファンディングも活用して、頑張っけて集めていきたいと考えています。

ただ、宝達山へ行く道路については、押水・福岡線と言いますが、交通に支障があるわけではないですが、数か所ほどがけ崩れを道路付近で起こしているような場所があります。

これが今後ひどくならないかという心配がありますので、県の方で改修など、よろしく願いしたいと思っています。秋にはこの道路でマラソンもしていますので、利用者の安全・安心のためにも、よろしく願いします。

また、千里浜の近くで、まちの賑わい創出の事業を検討しています。来月にはSSTRという大きなイベントがありますので、引き続き、海岸の保全等に関し、県のご理解とご協力をいただきたいと思っていますので、よろしく願いします。

【馳知事】

黒蜜姫はどうですか。

【宝達志水町長】

黒蜜姫はもちろん頑張ります。百万石の極みを目指して頑張りたいと思っています。農家の高齢化も今後の生産量拡大には課題ですが、知事にも応援してもらった地域おこし協力隊の若い皆さんも頑張ってくれていますので、農家の皆さんと協力しながら頑張っていきたいと思っています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、中能登町長お願いします。

【中能登町長】

中能登町の宮下です。よろしく願いします。

令和5年度の重点項目ですが、中能登町にはお医者さんが4人しかいません。

うち2人は50代、残り2人は70代という状況で、本当にかかりつけ医がいません。一方で、七尾市には2つの総合病院、公立能登総合病院、恵寿総合病院があります。隣接の羽咋市には羽咋病院があります。

今後、超高齢化社会になっていきますが、かかりつけ医の必要性を実感しています。私も70歳になり、やはり急速に色々な医療や介護の問題が出てきますので、これから地域医療のことを考えていかなければならないと思っています。

介護や看護、生活支援などを含め、地域の包括支援ケアシステムをしっかりと構築していくには、地域医療を担うお医者さんの必要性は非常に高いと思っています。こうした中、中能登町には1万7千人しかいませんが、100歳以上の人が今年は18人います。去年は15人でした。

来年以降もやはり17~18人の100歳の人がいらっしゃるだろうということで、超高齢化社会を実感しており、地域医療をしっかりと拡充していかなければと思っています。

今、中能登町では、公園の中にメディカルパークという医療施設を作ろうとしています。財務省の指導の下、PFIの事業採択を進めていく予定ですが、民間の力をお借りして、地域の公園をメディカルパークとして整備していくということを今年の重点目標としてやっていきたいと考えています。

それと、これは県への要望ですが、空き家対策です。町内にも危険な空き家が多くなります。特に相続人がいなくなった場合の危険な空き家に対し、県の方で色々な面から助成していただけないかと思っています。他市町もそうだと思いますが、相続人がいない、家系が絶えているというような危険な空き家が今後どんどん出てくると思っていますので、県としてもうまく取り組んでいただきたいと思っています。以上です。

【司会（県総務部長）】

ありがとうございました。

続きまして、穴水町長、お願いします。

【穴水町長】

穴水町の吉村です。よろしく申し上げます。

穴水町の令和5年度の重点取組項目としては、県内でもトップクラスを目指した手厚い子育て支援を実施していきます。

昨年度から実施しています小中学校給食の完全無償化に続き、今年度からは保育施設における保育料完全無償化に加え、3歳児以上の入所児童の給食費完全無償化に取り組んでいます。これにより、こども園を含む保育施設における保育料、そして給食の完全無償化を実現することとしています。

また、妊娠から出産期までのサポートとして、国の出産子育て交付金・応援交付金に加え、町単独分として2万円上乘せする、さらには町単独事業の妊娠まるっとサポート事業として最大40万円を交付するなど、妊娠から出産・子育てに必要な経済的負担に対し、幅広く支援しています。

また出産・子育てする女性の支援を目的として、特に産前・産後の女性を支援しようということで、現在、穴水総合病院に助産師の外来を設けるべく、人材確保に関係機関と協議しているところです。

助産師外来（仮称）については、近々穴水総合病院に開設できるのではないかと考えています。

このほか、子供の居場所支援整備事業として、不登校の児童生徒への生活習慣ケアや食事提供などを行う施設の整備、そして365日一時保育ができるような体制作りとして、新たな地域子育て支援拠点施設の整備にも着手しています。

併せて、子供から高齢者までの多世代の輪を繋ぐためのイベントや体験学習、コワーキングスペース、多目的ホールなどを兼ね備えた、新たな地域交流の場として多世代交流センターの整備にも着手しています。

また町HPのリニューアルに合わせ、サテライトオフィス誘致や穴水ニュータウン無償分譲地の拡大など、移住定住政策についても積極的にPRしていきたいと考えています。

次に地域課題については、穴水町では少子高齢化による人口減少などに伴う地場産業や地域コミュニティの衰退、地域交通の維持、上下水道といったインフラ更新など、課題は多岐にわたっていますが、その中でも特に穴水小学校と穴水総合病院の老朽化対応が大きな課題となっています。

穴水小学校については、これまで数回にわたり大規模修繕改修工事や耐震工事を行い、学校機能を維持してきましたが、小学校そのものの躯体が築後54年経過して、老朽化が著しい状態です。

同じく穴水総合病院も築 41 年で、穴水小学校と同様、改修工事を繰り返しながら維持していますが、老朽化が著しい状態です。このような状況の中、町としても移転・新築を含めた総合的な判断が必要な時期にあると思っています。特に、老朽化が著しい穴水小学校は、昨年度から本格的に教育の安全確保のための協議を行っています。

最後に、先ほど知事の発言にもありました社会福祉施設等における昨今のエネルギー、食料品等の物価高騰による影響が非常に厳しいと感じています。特にこの社会福祉事業は、コストを価格に転嫁できない、できにくい事業ですので、社会保障のインフラを守っていくための事業継続支援が必要と思っています。更なるご支援のほどよろしく申し上げます。以上です。

【司会（県総務部長）】

はい、ありがとうございました。

続きまして、能登町長、お願いします。

【能登町長】

能登町長の大森です。よろしく申し上げます。

知事の発言のとおり、コロナが5月8日から5類に移行されるということで、社会活動の活発化により、地元経済の活性化、また地域の伝統文化が守られていくことに、すごく期待しておりますし、町としても応援していきたいと考えています。

皆さんと同様ですが、最大の課題はやはり人口減少、少子高齢化だと思います。町で作成している総合戦略に基づき、人口減少のカーブを少しでも緩やかにすること、町との関わりが深い人を増やす、関係人口の創出を重点事項として取り組んでいます。当然、子育て支援の充実、定住政策、福祉、DX、公共施設の適正管理など着実に取り組んでいきます。

まず定住政策として、少し細かい話になりますが、若者世代、子育て世帯の方が転入してきた場合、引越し費用として、とりあえず5万円を給付しています。また町の賃貸住宅等に入居するUIターン世帯の方には家賃の1/2、上限2万円を3年間助成することとしています。また町民の住宅購入、新築または改修にかかる費用の最大10%程度を助成しています。限度額は新築300万、中古100万、改修50万としています。

関係人口の創出として、首都圏を中心に起業意欲を持った若者に起業講座を行っています。地域の活用や課題を解決しながらのビジネス創出支援を実施しており、受講生が町との関係人口となり、町内事業者とのコラボ、また中小企業と町との連携等を

目指していくというものです。関連して、サテライトオフィスの誘致にも力を入れていきたいと思っています。

子育て支援として、能登町も学校給食費の保護者負担を今年度から3割程度軽減しましたが、これは日本全体の話として、国が全額ではなくても、何割かはぜひ手当してもらいたいと思っています。

それと宇出津地区に公立保育所が二つありますが、築後45年以上経過しており、今年度それを1つに統合して保育環境の充実を図ろうと、今年度末の建設を目指しています。

少し細かい話ですが、福祉関係では介護人材確保として、居宅介護支援専門員いわゆるケアマネージャーと言われる方に絞り、町の介護保険居宅支援を月平均10件以上提供するケアマネージャーさんに1会計年度につき20万円を支給することとしました。またケアマネージャーや主任ケアマネの資格を取ったり、更新した方に20万円支給して、ケアマネージャーの確保に努めることとしています。

DXについては、昨年度策定したDX推進計画に基づき、デジタル化を通じた町民が暮らしやすい街づくり、行政サービスの向上を目指すこととしています。細かいですが、色々取り組んでいるとご理解をいただき、今後ともご支援いただければと思っていますので、よろしくお願いします。以上です。

【司会（県総務部長）】

はい、ありがとうございました。

これで皆様からご発言をいただきましたので、最後に馳知事から発言がございます。

【馳知事】

ありがとうございました。県議会は年間4回あり、次は6月議会です。今日ご発言のあった少子化対策や交流人口、関係人口の拡大の案件、企業誘致、長寿命化対策、インフラ施設など、皆さん方の地元県議を通じて、ぜひ県議会で発言していただきたいです。私も県庁職員と調整した上で、議会できちんと答弁します。まず、地元県議との連携をお願いしたいと思います。これが一点目です。

宮元加賀市長の発言にあった「県として少子化、過疎化、人手不足に対するグランドデザインを持って取り組め」ということはおっしゃる通りです。もちろん、成長戦略の中にそうした項目を盛り込んでいきます。例えば、石川県は30近い大学と就職協定などの連携協定を結んでいます。

I L A Cが営業活動をして、石川県にはこういう企業もありますという就職支援とか、石川県から行っている学生さんへの支援をしています、実態として協定結んでいるだけの状態のものもあります。

やはりトップセールスでやった方がより良いと思いますので、連携協定を結んでいる県外の30近い大学、そして県内の21の高等教育機関に私が直接訪問して、1人も2人でも、志賀町でも、内灘町でも、川北町でも学生さん達の就職の面倒を見ていくという、きめ細かい取組をしていきたいと思っています。

先日、文化庁に行き、杉浦次長と話をしました。石川県には全国で一番多くの重伝建があります。この重伝建を活重伝建にしよう、活用しないと意味がないじゃないかと思っています。何に活用するかというと、サテライトキャンパスとして使おうと。

今度、日大とも連携協定を結びますし、京都府知事と連携協定をしようという話もありますが、連携協定を結んだ色々な大学、日体大、東京芸大とかのサテライトキャンパスとして使いたいと考えています。

ご承知のように大学生は90分授業15コマで2単位です。ということは、大体10日間ぐらい滞在すれば十分2単位を出せます。先ほど、どなたかの発言にもありましたように、地域おこしの活動とか、スポーツ文化、祭の準備、後片付け、福祉、介護、保育のサポート等々、様々な学生の活動をサテライトキャンパス方式で地域でしていただく。

重伝建の場合には、重伝建の施設を活用して、フリーWi-Fiにして、水回りを綺麗にして、そして活動の足の問題がありますので、ミニカーなのか、カートなのか、地域の足を活用して、学生が常時地域で活動できるような、県内19市町でそういう体制が構築できないかと考えています。まずは重伝建の施設を活用できないかと。

次は国交省とも話をして、空き家対策をやろうと思っています。先ほどのご発言にありましたとおり、引き受け手のない空き家もあれば、相続人もいるが、どう使っているかわからない空き家もあると思います。

空き家にいかに学生達が日常活動できるように連れてくるか、県内の大学も県外の大学も含めて、地域に若い学生達の活動の姿があるということは、地域の活力にもなりますし、それに対応する担当者を決めていけば、十分にやっていくことは可能だと思っています。

石川県では18～24歳までの人口が増えています。24歳以降、特に女性が県外に出て行ってしまうという数字があります。ここをむしろターゲットにしながら、地域おこしや様々な活動支援、農林水産業の体験を通し、交流人口を拡大していく具体的な施策をぜひやっていきたいと思っています。

西垣副知事の息子さんが知らないうちに、加賀市に住み込んで、活動していたという話を後でお母さんが聞いてびっくりしたと言う話もありました。色々な、思わぬ大学が各地域に入っています。今までのそういったことを洗い出し、さらに1校1校、私も営業活動に行き、石川県での活動を有効に使ってもらえないかということをお願いしたいと思っています。

市町のデジタル化については、先ほど冒頭申し上げたとおりなので、継続して西垣副知事を派遣します。また、野見市町支援課長をなぜ市町支援課長にしたかという点、昨年度までデジタル推進課長だったからです。野見課長は昨年度、デジタル推進課長として色々なネットワークを作りましたので、今度は市町支援課長となったことで、皆さんからの相談のハードルが低くなって、積極的に相談してもらえるとそういう趣旨です。

改めて日常的な皆さんとの意見交換を大切にしながら、一方で議会答弁も重要ですので、皆さんから地元県議に相談いただき、県議会で思う存分に質問を投げかけていただき、私が答弁に困るぐらいきめ細かくご指摘をいただき、そういう議会のやりとりを通じた市民・町民に対する回答もしっかりしていきたいと思っています。

村山金沢市長の発言にもあったように、今年は大きい3つのイベントがあります。G7富山金沢教育大臣会合については、このおかげで新田富山県知事と本当に深い交流をすることができ、とりわけ災害対応で連携がとれるようになりました。

それから、秋の国民文化祭は9月から始まる奥能登芸術祭と連携していけます。先日、台湾に行くと、エバー航空も台湾観光協会も、特にエバー航空でしたが、里山里海の旅行商品と奥能登芸術祭の旅行商品で作りました、人を送り込むから能登空港にチャーター便を使えるようにしてほしいと言われました。

それについてはCIQ体制も必要ですからわかりましたとご返事しましたが、そうであれば、珠洲市ばかりでなく、奥能登一円また里山里海であれば9市町ありますので、こうした機会を捉え、営業活動をしたいと思っています。

奥能登芸術祭も現在は珠洲市ですが、例えば3年後にはもっと拡大して、まさしく奥能登2市2町、あるいはトキが放鳥となるので9市町なのか、拡大しても十分に対応していくことが可能だと思っています。

先日、香川県の話聞いて驚きました。瀬戸内芸術祭は香川県が仕込みをして、ヨーロッパや欧米に営業活動して、インバウンドが19倍に増えたという話を聞きました。なるほどやっぱりそういうきちんとコンテンツがあり、そのための営業活動をすることで、やはりインバウンドも展開をしていくことができるのだと。

珠洲の奥能登芸術祭はこれで3回やり、十分定着してきたということで、次の展開も戦略として考えたいなと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。

改めて統一地方選も終わり、落ち着いた環境でそれぞれ6月議会を迎えると思いますので、また何か課題があれば、いつでもまたご相談いただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

【司会（県総務部長）】

以上をもちまして、本日の連携会議を終了させていただきます。

皆様どうもありがとうございました。